

2020 年度歴史地震研究会 第 5 回幹事会議事録

場所:Web 会議

日時:2021 年 4 月 27 日(火) 17:00~19:00

出席者:松浦(会長), 堀川(副会長), 諸井(財政), 西村(行事), 加納(広報), 行谷(編集出版), 植竹(監査), 大邑(総務)書記

1. 入退会者の承認及び 2020 年度会費の受取状況 (財政)

【資料 1】入退会者の承認及び 2020 年度会費の受取状況

- ✓ 入会者 1 名, 2020 年度休会者 1 名(2020 年度末に自動的に退会とする), 2020 年度末休会者 0 名, 2020 年度会員特典復活 1 名, 登録内容変更 4 名
- ✓ 現段階での会員数 267 名
- ✓ 2020 年度会費受取状況 248 名(会員 266 名のうちの 93%が支払い済み)
- ✓ 未納者 19 名(6 月末に会費督促を予定) 2021 年度会費 7 名
- ✓ 2019 年度未納者 11 名(会員特典停止者:上記未納者 19 名とは別, 現在会員数にはカウントせず)

2. 「歴史地震」の編集について (編集出版)

【資料 2】『歴史地震』の編集について

- ✓ 会誌バックナンバーの在庫整理(会員への特別無料配布)について報告
 - ・希望者が空のレターパックを送りそれに詰める方法で希望者に配布した
 - ・9 名の希望者があり 8 名に計 70 冊を配布(1 名が会費未納であったため会費督促をしたが反応がなかったため配布せず)
 - ・各号保管分が最大 20 冊になるよう産総研から地震研へ 130 部程度を送付し総務が保管(送料は歴史地震研究会負担)
 - ・残りの 240 部は保管不能につき廃棄
- ✓ 『歴史地震』第 36 号について
 - ・現在 36 号の総ページ数は受理されたもので 221 ページの予定(受理できていない原稿 80 ページ相当を合算すると 300 ページ程度が見込まれる)
 - ・現在受理された順に著者校正をおこなっており未受理のものは 4 月末をタイムリミットとする
 - ・5 月下旬に著者校正を終了, 6 月上旬に講演要旨の著者校正を終了, 6 月 21 日に入稿予定, 6 月下旬~7 月上旬でゲラチェック, 7 月末発送
 - ・前田印刷の見積もりは税込み 764, 038 円
 - ・宛先不明等で戻ってきた分について再送付する費用が必要
 - ・昨年の発行部数は 450 部であったが現在 35 部が残っている
 - ・発行部数は 7 月 13 日までに確定, 送付リストは 7 月 22 日までに確定する必要がある, それまでに会費督促などを行っておきたい
 - 7 月 19 日(月)までに会員送付リスト, 図書館等送付先リストを確定することを確認
 - 発行部数計算: 会員送付 260+図書館 125+新入会員 10(見込み)+保管 35
 - 上記 430 部+著者希望分(現時点では不明)で決定することを確認
 - ・7 月 19 日以降に会費を払った会員(前田印刷から送付できない分)について送料を会の経費から出すのか着払いにするのか

- 会則には会費は「各年度始めに納入しなければならない」「遅滞なく会費を納めている会員は、次の特典を有する」とあるので、自己負担になっても仕方ないのではないか
- 会費督促で会誌の送付について言及することを決定
- 次の総会で会則に会費納入の期日について明記する変更を行う必要がある
(6月末までに会費納入していない場合は会誌を送ることができない等)
- ・会費払込票の前田印刷への引き渡し方法について確認
- ・著者希望分の会誌送付方法について、挨拶文や梱包にかかる費用の面から、前田印刷からの送付ではなく今まで通り総務から希望者に送る方法(バックナンバーと同じ)をとることを確認

3. 2021年苦小牧大会について(行事)

【資料3】2021年苦小牧大会準備状況

- ✓ 発表申し込みを開始、現在1件あり(締め切りは5月末)
- ✓ 講演会について厚真町教育委員会の方(考古学)をお願いすることを決定
- ✓ 演者については感染症の状況等を見て今後調整
- ✓ 講演会については苦小牧の広報などで発信してくれるとのこと
- ✓ 巡検案について PowerPoint で説明(場所、内容、食事、時間、見学許可、雨天時、人数制限ほか)
 - 雨天の場合は行けない場所もある事を事前に明記することを確認
 - ワクチン接種進捗状況で参加申し込みが少ない可能性あり
 - 巡検および講演会の詳細はプログラム決定後の第2報に掲載の方向
- ✓ オンライン開催等の検討は必要なのか →判断はまだ保留
- ✓ 懇親会は実施しない方向で検討
- ✓ 公開講演会は地元の人のみであれば開催可能(講師も地元の方でまとめた方が実施しやすい)
- ✓ 研究大会の件だけでも幹事会をこまめに開催してもよい

4. 功績賞について

- ✓ 昨年と同様に今年度も感染症拡大の影響による大会開催の流動性を考慮し選考なしとすることを確認

5. 広報活動について(広報)

- ✓ 前回からの作業について説明(musha メーリングリストの登録、大会第1報の掲載、17号の掲載、地震学会ニュースレター3月号への苦小牧大会案内掲載)
- ✓ 今後の作業について説明(35号の掲載、地震学会ニュースレター7月号への大会案内投稿、mushaの整理・再登録フォームを周知)
 - mushaの整理の前に名簿を整理・確認

6. その他

- ✓ 外部からの推薦依頼等があった場合の会員への周知方法について検討
- ✓ 「3.11を災害伝承の日」に制定する動きについて経過報告

○次回幹事会は6月開催の予定 (Web開催)

以上